

小袖一つ・直垂三具・同じく腰三具等云云。小袖は七貫、直垂並びに腰は十貫、已上十七貫文に当たれり。

夫以れば天台大師の御位を章安大師顕はして云はく、止観の第一に序の文を引いて云はく「安禅として化す、位五品に居したまへり。故に経に云はく、四百万億那由他の国の人に施すに一々に皆七宝を与へ、又化して六通を得せしむるすら、初随喜の人に如かざる事百千万倍せり、況んや五品をや。文に云はく、即ち如来の使ひなり。如来の所遣として如来の事を行ず」等云云。伝教大師、天台大師を釈して云はく「今吾が天台大師は法華経を説き法華経を釈し群に特秀し唐に独歩す」云云。又云はく「明らかに知んぬ、如来の使ひなり。讃めん者は福を安明に積み、謗らん者は罪を無間に開く」云云。如来は且く之を置く。滅後の一日より正像末二千二百余年が間、仏の御使ひは二十四人なり。所謂第一は大迦葉、第二は阿難、第三は末田地、第四は商那和修、第五は毘多、第六は提多迦、第七は弥遮迦、第八は仏駄難提、第九は仏駄密多、第十は脇比丘、第十一は富那奢、第十二は馬鳴、第十三は毘羅、第十四は竜樹、第十五は提婆、第十六は羅睺、第十七は僧伽難提、第十八は僧伽耶奢、第十九は鳩摩羅駄、第二十は闇夜那、第二十一は盤駄、第二十二は摩奴羅、第二十三は鶴勒夜奢、第二十四は師子尊者なり。此の二十四人は金口の記す所の付法蔵経に載せたり。但し小乗・権大乘経の御使ひなり、いまだ法華経の御使ひにはあらず。三論宗の云はく、道朗・吉蔵は仏の使ひなりと。法相宗の云はく、玄奘・慈恩は仏の使ひなりと。華嚴宗の云はく、法蔵・澄観は仏の使ひなりと。真言宗の云はく、善無畏・金剛智・不空・恵果・弘法等は仏の使ひなりと。

日蓮之を勸へて云はく、全く仏の使ひに非ず、全く大・小乗の使ひにも非ず。之を供養せば災を招き之を謗せば福を至さん。問ふ、汝の自義か。答へて云はく、設ひ自義為りと雖も有文・有義ならば何の科あらん。然りと雖も釈せる有り。伝教大師の云はく「詎ぞ福を捨て罪を慕ふ者あらんや」と云云。福を捨つるとは天台大師を捨つる人なり。罪を慕ふとは上に挙ぐる所の法相・三論・華嚴・真言の元祖等なり。彼の諸師を捨て一向に天台大師を供養する人の其の福を今申すべし。

三千大千世界と申すは東西南北・一須弥山・六欲梵天を一四天下となづく。百億の須弥山・四洲等を小千と云ひ、小千の千を中千と云ひ、中千の千を大千と申す。此の三千大千世界を一つにして四百万億那由他の国の六道の衆生を八十年やしなひ、法華経より外の已今当の一切経を一々の衆生に読誦せさせて、三昧六通の阿羅漢、辟支仏・等覺の菩薩となせる一人の檀那と、世間・出世の財を一分も施さぬ人の法華経計りを一字一句一偈持つ人と相對して功德を論ずるに、法華経の行者の功德勝れたる事百千万億倍なり。天台大師此に勝れたる事五倍なり。かゝる人を供養すれば福を須弥山につみ給ふなりと、伝教大師ことはらせ給ひて候。此の由を女房には申させ給へ。恐々謹言。

日蓮花押